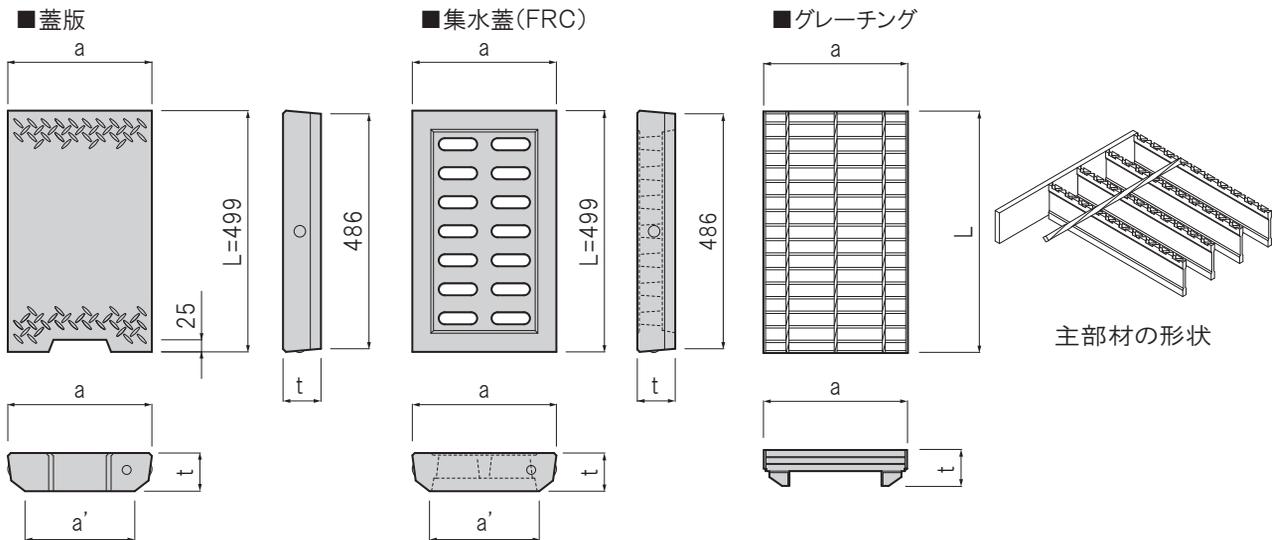


特長

- 1 防音構造になった蓋なので、ゴム等の緩衝材が不要です。
- 2 スリップ防止のため、表面に縞鋼板の模様がついています。
- 3 MX側溝、MSR側溝、CRV側溝、CC側溝の蓋として使用できます。

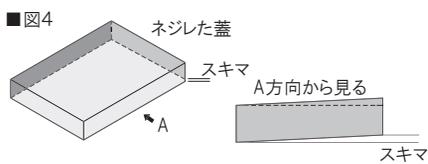
標準図



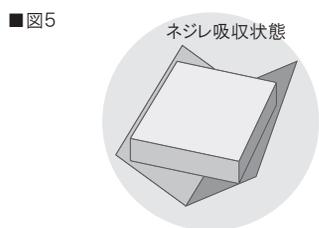
規格表

呼び名	寸法 (mm)											参考			
	コンクリート蓋				集水蓋				グレーチング蓋			MX側溝	MSR側溝 CRV側溝 CC側溝	MSR側溝	
	a	a'	t	参考重量 (kg/枚)	a	a'	t	参考重量 (kg/枚)	a	t	参考重量 (kg/枚)				
			L=995		L=498										
3025	300	223	80	25	300	223	80	16	300	80	23.2	12.1	300用	250用	-
4030	400	323	95	41	400	323	95	25	400	95	35.8	18.3	400用	300用	-
5040	500	423	110	60	500	423	110	38	500	110	51.2	26.2	500用	400用	-
6050	600	523	125	83	600	523	125	50	600	125	70.4	34.0	-	500用	-
7060	700	623	140	109	700	623	140	63	700	140	92.1	47.3	-	600用	700用
8070	800	723	150	136	-	-	-	-	800	150	99.2	59.5	-	-	800用
9080	900	823	160	164	-	-	-	-	900	160	110.7	66.4	-	-	900用

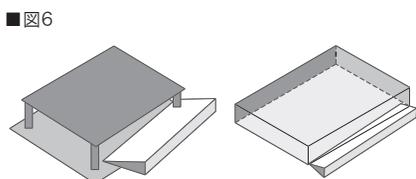
column 画期的な線接触セオリー



5ページで触れた騒音の原因である“ネジレ・曲がり”をいかにして克服するか？製品の完全な平面化が技術的に困難である以上、それを吸収するよい方法はないか？こうして研究を重ねた結果が、以下に述べる「RV理論」なのです。



ネジレ、曲がりの吸収
 コロンブスの卵的発想で開発されたのが“線接触”の理論。(図5)のように、蓋を“水平面”で受けるのではなく、“斜面”を設置することで“線”で受ける。このことで、不安定な“点接触”をさけることができます。これは(図6)のように、4本足の1本が短い場合に、クサビを入れてスキマをなくすのと同じ原理なのです。



優れた安定性
 このように、RV理論は、V面でネジレを吸収し、R面との線接触を図ることで、蓋と側溝の接点を最低4点確保。スキマがなく、騒音が発生しない施工を可能としました。